

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,236	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,236

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	t-CO ₂	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	1,627	t-CO ₂		t-CO ₂	1,466	t-CO ₂	1,215	t-CO ₂	1,236	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%	%		%		24.0	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%	%		%		%	%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和4年度途中に電力会社を変更したこと及びデマンド警報による電力抑制の徹底でCO2の削減につながった。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実践 【特に証明機器】	・使用していない教室や通路等の消灯を徹底する。 ・人感センサー導入により不要な証明を削減する。	継続する。	概ね実施している。
省エネルギー・省資源行動の実践 【特に冷暖房】	・クールビズ、ウォームビズを推奨する。 ・冷暖房区画の限定(不使用室の空調停止) ・空調機器を順次省エネ型に切り替え、冷房28℃、暖房20℃を目安に温度管理する。	継続する。	概ね実施している。空調機については順次実施予定である。
省エネルギー・省資源行動の実践 【特にOA機器】	・退社時は、事務機器やパソコンの主電源を切る。また退席時には省エネに配慮する。	継続する。	実施している。
省エネルギー・省資源行動の実践 【その他】	・自動販売機等の夜間照明を消灯する。 ・エレベーター使用台数を制限する。 ・契約電力量を見直し、デマンド制御装置で最大需要電力を抑制する。 ・業務の効率化を推進し残業を減らすよう呼びかけをする。	継続する。	概ね実施している。
省エネルギー・省資源行動の実践 【高効率機器への更新】	・危機の購入、更新時は高効率機器を選定する。	継続する。	概ね実施している。
一般管理・エネルギー使用量等の把握及び管理	・エネルギー使用料の把握・計測・記録を徹底する。 ・主要設備等の点検、管理を徹底する。	継続する。	実施している。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

電力需要の高まる時期の前に学内連絡会議の話題とし省エネ意識の醸成を目指している。
 効率的な業務遂行により残業を減らす呼びかけを実施している。
 冷暖の切替を集中管理し、適切な時期に空調を稼働させている。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

実施していない。